

千葉労働動向



No.

94.12.20 4115



(新支部長石川君)

京葉支部を闘いの岩盤 7回支部定期大会 石川新執行部発足。

千葉支社の「聖域」に楔うつ

闘いの橋頭堡を築く!

京葉支部第七回定期大会が、一月一五日、千葉市真砂コミユニティーホールで開催された。大会は、議長に高田代議員を選出したあと、冒頭あいさつに起った山田支部長は、「今次一月二日夕イ改闘争は、次なる闘いのプロローグであり、分割・民営化一〇年目を前にした、『東日本五万人体制』、『貨物八千人首切り合理化攻撃』との、勝負を決する過程に入ったのだということを全員が自覚する必要がある。新型特急行路の京葉への業務移管は、何よりも館山・勝浦への組織破壊攻撃だ。今回の強制配転には怒りを覚える。しかし支部の組織は確実に強化された。千葉支社の聖域としてあった『京葉運輸区、京葉電車区』の中に、われわれがインシアチブを握っていく拠点を築く日も遠くないと確信する。営業関係においては、支部書記長に対してボーナスカットが強行された。断じて許してはならない。労務政策のみを優先する千葉支社の姿勢を粉碎して、強制配転者の『塩づけ』打破へ向けて全力をあげて闘い抜こう」と決意を明らかにした。

続いて、来賓として勝浦市議選に組織内候補として起つ水野執行委員より決意の表明があり、本部長野委員長より今後の動労千葉の闘いの方向性と、京葉支

部への期待が明らかにされた。その後、経過報告、議事を一括提起後、質疑に入った。

異様な管理体制を敷く稲毛海岸

駅長こそ職場を暗くする元凶!

質疑の中で出た主なものは、
①、基地統廃合、鴨川運輸区構想についての動きについて、
②、キヨスク型直営店舗の廃止について来年の半ば頃とかという噂が出ている。又、J.Cの新設という話しも出ているが、関連事業の将来展望等についてどうなっているのか?
③、海浜幕張に退避線を造っているが、どのような経緯があるのか?
④、書記長に対するボーナスカットは絶対に許せない。また対応もひど過ぎる。稲毛海岸駅長の異様な管理体制が、職場を暗くしていると皆言っている。

以上のような質疑を含め、京葉支部の力量は確実に増幅された。大会は、新たに石川新支部長を選出し、京葉線内に闘う橋頭堡を築いていくことを全員が胸にし、成功裡に終了した。

●九四年度京葉支部新役員●

支部長	石川 義雄
副支部長	中村 康幸 吉野 道夫
書記長	山田 茂
執行委員	伊藤 昭一 桜井 照夫 鈴木 文男 鈴木 雅樹 高木 幸夫 半田 幸夫

営業関係

田文報告

二月一四日、千葉支社において営業関係職場における職場要求に基づき、団交が開催された。団交には現場代表も含め、団交が行なわれたが、当局の回答はまたしても職場要求とはかけ離れた内容である。これからは粘り強く当局に労働条件改善に向けた闘いを展開しなければならぬ。

以下団交内容は次のとおりである。

- 一 自動改札機設置駅に改札日勤要員を増員されたい。
- 二 各駅においてギリギリの要員配置となつて居るため、異常時における対応が混乱を極めている。とくに、乗り換え駅での接客業務は、トラブルが絶えない実態となつて居る。従つて各駅において、異常時に備えた要員配置とされたい。

当 業務に必要な要員は確保している。また、異常時については、支社総体として対応することになる。

組 マスコミでも話題になつているが、自動改札を飛び抜ける。暴力を受ける。夜一〇時以降は、出札もない。ホーム要員もない状況である。千葉駅でも一人しかいない状況だ。馬橋ではファミリーレストランの発砲による殺人事件も起きた。トラブルも含めて対応出来ない。防犯から言っても問題である。

当 会社としても第三者加害については、警察に連絡を取り合い、またマスコミでのキャンペーンを行ない、力を入れている。一月二月は、酔客も多いので支社で木・金に巡回を行なつて居る。

組 巡回といつても一時的なもので、ほとんど意味がない。駅に来る時間はほんの数十分だ。駅では券売機のプザードも鳴れば、そちらの対応しなければならぬ。改札券証口にたまったお客の対応だつて出来ない。

当 異常時には駅総体として対応してもらおう。連絡用のプザードを押してもらえば、他の職員や駅長、助役が駆け付けようになつて居る。

組 夜は改札の他は、誰も駅にはいなくなつてしまふ。一人より複数いれば、暴力にも、異常時にも対応できる。限度を越えた合理化が行なわれている。列車が乱れた場合の問合せ、切符の買い方がわからないとか、一番最初に対応するのは、改札である。小岩駅でも券証口にお客が飛び込んだ。

当 殴られそうになつたら、後に下げるとか、それなりに対応して欲しい。改札に二名いたほうが、サービスも出来るだろうが、会社としては、人件費が減つた分を運賃値上げしないとかなんて新型車両投入とかやトータルとしてのサービスを考へている。

組 駅員は切羽詰まつた状況にある。不況になつてトラブルは増えてきている。

(以下次号へ)

12月14日

営業関係のこ

キセル防止に牽制効果がある? 何のための新木駅特改なのか

(日刊四一一五号から続く)

新木駅特改の夜間業務は、防犯上問題なので、業務体制を検討されたい。

当 利用実態等を考慮し、実施している。

組 新木駅は、利用客が増えてくる実態はない。夜間防犯上問題がある。利用実態を具体的に明らかにされたい。

当 防犯上のことを言えば切りがない。現行の要員体制で対応されたい。

組 新木駅のような駅舎も駅の回りにも何もないところで特改をやらせるのは危険だ。増員ではなく中止せよ。

当 二〇時〜二二時まで乗客が利用する。

組 乗客が利用するといってもほとんどが定期券である。夜間特改の利用者は、一晩で一〇人足らず、特改は切符を売ることが業務であるはず。また新木駅は、二つの出口があり、何故片方の出口だけ特改をやるのかと苦情が来る。会社は、効率化の追求と云っている。本来だったらこんな駅に人を置く必然がない。まさに人活の延長だ。

当 夜間特改の場合は、定期券利用者のキセル防止に牽制効果がある。

組 牽制効果があるから特改を置くのか。よく考えてから回答せよ！昨年ダイ改の導入時は、少なくとも「条件は整っていないのは承知しているがお願いしたい。」と回答していた。牽制効果と特改は全く関係ないではないか。

・関連事業の将来展望および当面の具体策について明らかにされたい。(1)キヨスク型売店の将来展望を明らかにされたい。(2)JC店の経営形態が二種類となっているが、将来展望について明らかにされたい。

組 西船橋売店を廃止するとの提案であるが、西船橋は、現在ある売店の中で一番売れている店だ。廃止する理由は何なのか。

当 グループ企業トータルでの収益の向上を図る観点から、随時グループ企業へ移管していく。受入先の都合で今回は、西船橋となった。

組 これまでの団交での議論とは違う。関連事業のノウハウや蓄積を活かして、新しい職場を確保する、雇用の場の確保する、ということとキヨスク型売店の廃止と合わせてJC店の開店を行なってきた。今回は、廃止のみである。

当 フェューチャー二一の計画やグループ性のトータルとして考えている。

・JC東船橋店について、荷物の搬入量の増に伴い、業務量が増えている実態である。従って、早出、運出の要員を一名づつ増員されたい。

組 昨年から比べて、売り上げも増えており、仕入量も増えている。

当 店長から事情は聞いている。仕事にゆとりがない、と言っているが、時間内には業務が終わっている。

組 特に朝晩は、レジと袋詰めを追われ、商品を並べる時間もない。また、朝は商品を搬入することも困難である。

当 売れる時間に商品が並べられないチャンスロスはある程度は仕方ない。東船橋については、実態調査をする。

その他、①自動券売機に二二〇円の最低区間が買えず、乗客が困っている。②西船橋駅における遺失物対応の要員が不足している。③デリ力津田沼店の営業時間平休統一問題等の職場要求について、団交を行なったが、基本的な要求について対立となっている。

また、新木駅特改業務におけるきわめて不誠実な対応に対し、再度要求をまとめ、(一)二月二一日付けで申し入れを提出(京業線関係の申し入れと合わせて、団交を行なう予定である)。